

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第651号 2024年5月19日

受難の主日、復活徹夜祭、復活の主日ミサ

3月24日(日) <受難の主日(枝の主日)> 11時30分ミサが、ラファエル梅村昌弘司教主司式により執り行われました。開祭では、2020年1月から始まった新型コロナウイルス感染症の流行により中断していた主のエルサレム入城を記念する屋外での行列が、天候にも恵まれ行われました。典礼色はキリストの受難を表す赤で、梅村司教の祭服、司祭団のストラ(首から下げる細長い帯状のもの)は赤が使用されました。聖堂横の庭に枝を持った信徒たちが集まり、梅村司教が聖水(祝福された水)を振りかける灌水で祝福しました。その後、入堂の福音が朗読され、枝で飾られた十字架を先頭に、梅村司教、司祭団、奉仕者に続き、会衆が枝を掲げ、聖歌を歌いながら聖堂入口まで行列で進みました。

3月30日(土) 午後7時から復活徹夜祭ミサが梅村司教主司式により執り行われ、洗礼・堅信・聖体の「入信の秘跡」の祭儀がありました。典礼色は神の栄光を表す白(梅村司教の祭服と聖櫃を覆う布は金、司祭団のストラは白)。典礼は、第1部「光の祭儀」、第2部「ことばの典礼」、第3部「洗礼と堅信」、第4部「感謝の典礼」から構成。聖堂入口で行われた「光の祭儀」では、梅村司教により「新しい火」と、復活した主キリストがともにいてくださることを表すしるしとしての「復活のローソク」が祝福され、火がともされました。続いて、行列の先頭に「復活のローソク」を高く掲げて照明を消した聖堂に入

堂し、祭壇に向かう「復活のローソクの行列」があり、祭壇に着くと復活賛歌が鈴木真師と聖歌隊により声高らかに歌われました。「ことばの典礼」では旧約聖書の朗読があり、「入信の秘跡」では16人がお恵みにあずかりました。

3月31日(日) <復活の主日>、梅村司教主司式による11時30分ミサがささげられ、司教は説教で「神の究極の愛はゆるしである」と話されました。ミサ終了後に、2020年からのコロナ禍により中断していた復活祭パーティーが教会ホールで開催され、主の復活を盛大に祝い、改めて新受洗者の紹介などがありました。

鈴木真主任司祭、復活徹夜祭ミサ説教

皆さん、ご復活おめでとうございます。

今年も、教区合同入信志願式に参加された方全員に、鎌倉のレデンプトリスチン修道院から、お祝いのカードが届いています。レデンプトリスチンは観想修道会なので、シスターたちは毎日祈りの生活をされる中で、毎年、合同入信志願式で志願者となったすべての人、一人ひとりのために毎日、祈ってくださっています。カトリック教会が一教会ではなく、広くつながっていることの、本当にわかりやすいしるしでしょう。コロナ禍の3年間は、合同入信志願式自体が行えなかったのですが、昨年からようやく、このつながりも復活しました。

さて、キリスト教信仰の土台となるのは、「呼ばれる」ことであると言えます。いつも何かの折に言うことですが、「教会」と訳されたギリシャ語の〈エ

クレシア〉は“呼ばれた者の集まり”という意味だそうです。キリストを通して、神さまに呼ばれた人の集まりが「教会」であり、また、それこそが〈復活〉である、と言えるでしょう。わたしも自分が神さまから名指しで呼ばれていることに気付いた時、「これぞ復活！」と悟りました。そして、神さまに呼ばれるのは、決して1回限りではありません。生きている限り、わたしたちは「その、あなた」と神さまから呼ばれ続けます。そして、そのこともまた、〈キリストの復活〉に他なりません。ただ、わたしたちは、「呼ばれた」ときに、その意味がすべてわかるわけではなく、キリストの弟子たちもそうだったように、その「呼ばれた」ことが、さまざまなところに、人に、つながっていく…そして、それがまさに、〈神さまのわざ〉であることに、少しずつ気付いていくものなのでしょう。

きょう、入信の秘跡を受ける皆さんも、ここに「呼ばれた」ことが、これからたくさんのことや、人につながっていくことでしょう。そして、そのことがまさに、今もキリストが生きて共にいてくださるし、「復活」なのです。

今年も多くの兄弟姉妹を迎えられる恵みに感謝しつつ、共に復活をお祝いしたい、と思います。